

2019年度 主要私立大志願状況(2月16日現在集計)

河合塾

2019/2/18

私立大一般入試では2月入試が終盤を迎え、2期(3月)入試の出願がスタートしている。主要大の1期入試(2月実施)の志願者数が出揃った現時点の志願者集計(2月16日現在)から今春入試を分析する。

■志願者数の増加は鈍化、一般方式では前年並みにとどまる

【表1】は現時点で志願者数が判明している全国104大学の状況をまとめたものである。今年度の一般入試の志願者数は全体で前年比103%、やや増加した。方式別にみると一般方式は前年並みだが、センター方式で増加した。センター方式の増加は、センター試験の英語リスニング、国語の平均点が大きく上昇した影響もあるだろう。

全体の志願者数は増加したものの、今年度の受験生には強い安全志向が感じられる。2018年度入試で都市部の大規模大の多くが合格者数を絞り込み、文系学部を中心に一般入試が難化した。その反動から、前年倍率が上昇した都市部の文系学部を中心に極端な志願者減少が目立った。また【表1】にあるように「早慶上理」「MARCH」「関関同立」といった難関大グループで志願者が減少し、受験生の消極的な出願動向がうかがえた。一方、主要大学グループ以外の大学の集計である「上記以外の大学」では、前年比108%と志願者数は大きく伸びた。とくにセンター方式では前年比116%と高い伸びを示した。難関大を避けつつもその他の大学の出願数を増やし、なおかつ個別試験の受験が必要でないセンター方式で増やす、という安全志向が明瞭な年となった。

【表1】私立大 大学グループ別志願状況

学校区分	一般方式			センター方式			合計			
	18年度	19年度	前年比	18年度	19年度	前年比	18年度	19年度	前年比	
主要104大学 計	1,761,492	1,756,992	100%	851,516	922,426	108%	2,613,008	2,679,418	103%	
主な内訳	早慶上理	212,106	199,416	94%	34,950	41,063	117%	247,056	240,479	97%
	MARCH	308,375	292,974	95%	156,020	154,439	99%	464,395	447,413	96%
	日東駒専	167,600	167,709	100%	118,330	116,761	99%	285,930	284,470	99%
	成成明國武	68,407	69,517	102%	41,087	43,169	105%	109,494	112,686	103%
	首都圏理系10大学	116,321	120,091	103%	87,916	102,656	117%	204,237	222,747	109%
	首都圏女子13大学	38,715	41,012	106%	25,516	27,830	109%	64,231	68,842	107%
	関関同立	194,269	184,453	95%	79,364	80,432	101%	273,633	264,885	97%
	産近甲龍	185,169	190,964	103%	61,563	70,266	114%	246,732	261,230	106%
上記以外の大学	470,530	490,856	104%	246,770	285,810	116%	717,300	776,666	108%	

※数値は2/16現在、出願期間中の方式および2期入試は集計対象外(大学グループ)

早慶上理: 早稲田・慶應義塾・上智・東京理科 MARCH: 明治・青山学院・立教・中央・法政 成成明國武: 成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵
日東駒専: 日本・東洋・駒澤・専修 首都圏理系10大学: 千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・東京工科・東京電機・東京都市・東京農業・麻布・神奈川工科
首都圏女子13大学: 大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・聖心女子・清泉女子・津田塾・東京女子・日本女子・東洋英和女学院・フェリス女学院
関関同立: 関西・関西学院・同志社・立命館 産近甲龍: 京都産業・近畿・甲南・龍谷

■今春も5大学で志願者数が10万人を超える

今春も現時点ですでに志願者数が10万人を超えている大学が5大学ある。東洋大、法政大、明治大、早稲田大、近畿大の5大学で、なかでも近畿大の志願者数は2018年度よりさらに増加、13万8千人を超えた。一方、法政大、明治大、早稲田大では2018年度より志願者が減少しており、志願者増にブレーキがかかった。

大学グループ別の志願状況では、「早慶上理」は前年比97%となった。東京理科大で志願者が増加したものの、他の3大学では減少した。とりわけ上智大の志願者数は前年比90%と大きく落ち込んだ。一方でセンター方式では、早稲田大、東京理科大ともに志願者数は大きく増加した。

「MARCH」は前年比96%とこちらも志願者が減少した。国際系の2学部を新設した中央大を除く4大学で志願者が減少した。なかでも10万人を超える志願者を集める法政大、明治大で減少率が高くなった。また、青山学院大ではコミュニティ人間科学部を新設したが、志願者増にはつながらなかった。このほか国際基督教大(前年比87%)、学習院大(同94%)など、難関大では志願者が減少したところが目立った。

「日東駒専」では前年比99%であった。2018年度は志願者数が10万人を超えていた日本大が、2019年度は現時点で約8万6千人(前年比85%)と大きく落ち込んでいる。昨年、大学スポーツ活動を巡る問題の対応で世間から批判を浴びた影響も大きいだろう。日本大を除く志願者数は3大学計で前年比107%と大きく増加した。MARCHクラス以上の難関大に挑戦しなかった層を取り込んだ様子がうかがえる。

西に目を向けると、「関関同立」は前年比97%となった。関西大を除く3大学で志願者が減少、関西学院大(前年比91%)、同志社大(同92%)で大きく減った。一方、「産近甲龍」は前年比106%と志願者は増加した。京都産業大(前年比110%)、龍谷大(同109%)、甲南大(同117%)では前述の近畿大以上の増加率となり、こちら

も首都圏同様、「関関同立」からこれらの大学に出願をシフトした受験生が多かった様子が見て取れる。

■学部系統別—理・工が人気の一方、医・薬で志願者減

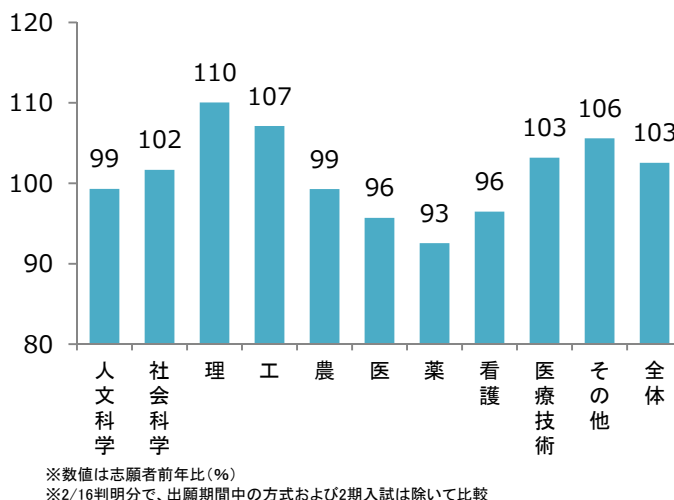
【グラフ2】は学部系統別の志願動向である。私立大全体の前年比 103%を基準に各系統の動向を確認すると、理、工学系の志願者増が目立つ一方、人文科学、社会科学系では前年並みからやや増程度にとどまり、2018 年度まで鮮明な文高理低に歯止めがかかった。

文系では、法、国際系などで志願者が増加したものの、文・人文、社会福祉などで減少した。また、経済系も前年比 101%と私立大全体の増加率を下回り、人気は低調である。とくに難関大で志願者減少が目立ち、これが全体の動向に影響した。

理、工学系では、千葉工業大、工学院大、芝浦工業大、東京電機大などで志願者が大きく増加した。また、地方の大学でも志願者の増加が目立つ。一方で、慶應義塾大、早稲田大などでは志願者が減少したものの、減少率はそれほど高くない。

医療系は不人気が目立つ。医学科では、聖マリアンナ医科大(前年比 55%)、藤田医科大(同 88%)、北里大(同 72%)などで志願者が大きく減少した。医学科人気は一頃に比べ落ち着きを取り戻し、志望者の頭数は以前に比べ減っているものとみる。上記の大学では入試日程が他大とバッティングしており、志願者が分散する形になった。

【グラフ2】私立大 学部系統別志願状況



■各地区主要大学の志願状況

次に全国の主要大学の志願状況(判明分)をみってみる。【表3】はいずれも2月16日までに判明した1期(2月実施)入試の集計である。

【青山学院大学】

大学全体の志願者数は前年比 96%、5年ぶりの志願者減となった。今春はコミュニティ人間科学部を新設、約1千4百人の志願者が集まったが、大学全体の志願者の減少はそれを上回った。2018年度は合格者数を前年の9割程度まで減らしたことが影響したものとみる。方式別にみると、一般方式で前年比 93%、センター方式で同 108%と、対照的な動向となった。

学部別にみると前年の反動が出ているのが特徴である。とくにセンター方式では、2018年度と今年の前年比を比較すると、文(150%→78%)、地球社会共生(42%→31%)、経済(57%→233%)など、著しい隔年現象が出ている。今春は入試変更の少ない年であったが、そのなかで経済学部個別学部B方式は英語外部試験が必須ではなくなった。この変更で志願者は前年の6倍近く集まった。英語外部試験はTEAPのみが指定されていたことも志願者が少なかった理由であろう。

【慶應義塾大学】

大学全体の志願者数は前年比 97%、2年連続の志願者減となった。今春の志願者数は過去10年で最少となった。学部別にみても、医学部で前年並み、環境情報学部で増加したほかは、いずれの学部も志願者は減少した。

とくに志願者数の減少率が高いのは、法(前年比 93%)、薬(同 91%)、看護医療(同 94%)などの学部である。薬学部は5年連続、看護医療学部は3年連続の志願者減となった。同じ医療系でも医学部では前年比 100%、2018年度まで4年連続の志願者減となっていたが、ようやく下げ止まった。

経済、商学部はA・Bの2方式で入試を実施する。いずれもA方式では前年並みの志願者数となったが、入試難易度の高いB方式で志願者が減少した。理工学部では学部全体の志願者は前年比 96%と減少率が高くなっているが、物理情報工、管理工などの学門1・2で志願者増、学門3~5で減と明暗が分かれた。学門5は2018年度入試で志願者が大きく増加した反動もありそうだが、機械工、応用化学などの学門3・4はここ3年ほど志願者の減少が続く。

[上智大学]

志願者数は前年比 90%と大きく減少した。2018 年度入試では大学全体で合格者数を約 1 千人（前年比 84%）減らしており、受験生に警戒されたようだ。

方式別の志願者数は、学科別で前年比 90%、TEAP 利用型で同 86%と TEAP 利用型で減少率が高い。TEAP 利用型は前年度の志願者増により多くの学科で難化しており、学科別以上に敬遠された形だ。

学部別にみると、神、法 学部を除き、志願者は減少した。なかでも総合グローバル、文、理工、外国語、総合人間科学の 5 学部では、1 割以上減少した。

[中央大学]

志願者数は大学全体で前年比 105%と増加した。志願者増加の要因は国際情報、国際経営の 2 学部の新設にある。両学部とも 6 千人を超える志願者を集めた。一方、既存の学部では、経済学部で前年比 108%と志願者が増加したほかは、いずれの学部も志願者が減少した。とくに文（前年比 75%）、商（同 83%）で減少率が高い。

なお、方式別にみると、英語外部検定試験利用入試の志願者が前年比 255%と大きく増加した。新設 2 学部の新規実施のほか、経済学部の志願者が前年の 436 人から 1,400 人に増加したためである。経済学部では対象となる外部試験のうち、英検の基準が前年までの準 1 級合格から英検 CSE スコア 1980 以上（英検 2 級合格レベル）に引き下げられており、これが志願者増加の要因となった。

[東京理科大学]

大学全体の志願者数は前年比 107%。前年から約 4 千人増となった。方式別では一般方式の志願者数が前年比 100%、センター方式で同 122%と、センター方式で大きく増加した。

一般方式ではグローバル方式で前年比 130%と志願者を集めた。一方、B 方式では前年並みの志願者数にとどまった。センター方式では A 方式で前年比 115%、C 方式で同 157%といずれも志願者が増加した。C 方式ではセンター試験は英・国の 2 教科を利用する。今年は英・国とも平均点が上昇、出願締切日もセンター試験後であることから、多くの志願者が集まった。

【表3】主要私立大 大学別志願状況

大学	一般方式			センター方式			合計		
	18年度	19年度	前年比	18年度	19年度	前年比	18年度	19年度	前年比
北星学園	1,989	2,010	101%	769	1,112	145%	2,758	3,122	113%
北海学園	4,154	4,306	104%	1,873	2,433	130%	6,027	6,739	112%
東北学院	5,749	5,741	100%	3,177	3,637	114%	8,926	9,378	105%
千葉工業	27,020	29,264	108%	25,145	30,489	121%	52,165	59,753	115%
青山学院	49,855	46,287	93%	13,050	14,117	108%	62,905	60,404	96%
学習院	20,447	19,143	94%	-	-	-	20,447	19,143	94%
北里	10,897	9,903	91%	4,411	4,210	95%	15,308	14,113	92%
慶應義塾	43,301	41,875	97%	-	-	-	43,301	41,875	97%
工学院	10,872	12,544	115%	6,409	7,357	115%	17,281	19,901	115%
國學院	14,109	14,503	103%	7,073	11,005	156%	21,182	25,508	120%
国際基督教	1,448	1,255	87%	-	-	-	1,448	1,255	87%
国土館	9,723	8,832	91%	9,554	6,203	65%	19,277	15,035	78%
駒澤	23,309	24,736	106%	19,200	21,547	112%	42,509	46,283	109%
芝浦工業	22,404	22,598	101%	16,541	21,095	128%	38,945	43,693	112%
上智	31,181	27,916	90%	-	-	-	31,181	27,916	90%
成蹊	13,075	14,430	110%	8,008	10,530	131%	21,083	24,960	118%
成城	11,569	11,257	97%	9,404	7,823	83%	20,973	19,080	91%
専修	25,405	30,549	120%	16,771	21,133	126%	42,176	51,682	123%
大東文化	11,258	10,444	93%	9,888	9,560	97%	21,146	20,004	95%
中央	47,593	49,378	104%	39,820	42,087	106%	87,413	91,465	105%
津田塾	2,112	2,258	107%	2,919	2,918	100%	5,031	5,176	103%
東海	25,289	28,836	114%	19,154	22,419	117%	44,443	51,255	115%
東京女子	5,663	5,282	93%	4,674	4,437	95%	10,337	9,719	94%
東京電機	10,548	13,439	127%	7,932	9,120	115%	18,480	22,559	122%
東京都市	9,031	8,557	95%	14,264	16,553	116%	23,295	25,110	108%
東京農業	20,323	18,658	92%	8,731	8,524	98%	29,054	27,182	94%
東京理科	36,869	36,838	100%	18,496	22,512	122%	55,365	59,350	107%
東洋	48,264	52,082	108%	52,021	48,731	94%	100,285	100,813	101%
日本	70,622	60,342	85%	30,338	25,350	84%	100,960	85,692	85%
日本女子	6,047	7,068	117%	4,550	5,938	131%	10,597	13,006	123%
法政	81,758	75,199	92%	40,741	40,248	99%	122,499	115,447	94%
武蔵	12,245	13,195	108%	5,223	4,532	87%	17,468	17,727	101%
明治	85,038	80,033	94%	34,747	31,268	90%	119,785	111,301	93%
明治学院	17,409	16,132	93%	11,379	9,279	82%	28,788	25,411	88%
立教	44,131	42,077	95%	27,662	26,719	97%	71,793	68,796	96%
早稲田	100,755	92,787	92%	16,454	18,551	113%	117,209	111,338	95%
愛知	13,208	12,517	95%	5,931	7,818	132%	19,139	20,335	106%
中京	21,494	19,069	89%	13,432	13,743	102%	34,926	32,812	94%
南山	16,803	16,964	101%	7,960	7,504	94%	24,763	24,468	99%
名城	21,473	21,476	100%	16,231	16,513	102%	37,704	37,989	101%
京都産業	30,151	32,060	106%	15,367	17,901	116%	45,518	49,961	110%
同志社	48,367	42,571	88%	10,199	11,076	109%	58,566	53,647	92%
立命館	53,595	53,027	99%	36,947	34,979	95%	90,542	88,006	97%
龍谷	38,406	41,044	107%	8,956	10,469	117%	47,362	51,513	109%
関西	64,029	63,364	99%	20,529	23,391	114%	84,558	86,755	103%
近畿	104,844	105,298	100%	30,637	33,008	108%	135,481	138,306	102%
関西学院	28,278	25,491	90%	12,796	12,056	94%	41,074	37,547	91%
甲南	11,768	12,562	107%	6,603	8,888	135%	18,371	21,450	117%
広島修道	4,922	5,122	104%	3,658	3,875	106%	8,580	8,997	105%
松山	5,778	5,749	99%	1,662	1,566	94%	7,440	7,315	98%
西南学院	13,205	12,826	97%	7,676	8,520	111%	20,881	21,346	102%
福岡	32,268	31,456	97%	15,393	17,350	113%	47,661	48,806	102%

※数値は2/16現在、出願期間中の方式および2期入試は集計対象外

学部別では、経営、理、理工学部で志願者が増加した。なかでも経営学部では前年比 134%と大きく増加した。学科別にみるとビジネスエコンミクス学科では志願者が減少したものの、経営学科で増加した。とくにA方式で志願者が倍増した。

[法政大学]

大学全体の志願者は前年比 94%と減少した。4年ぶりの志願者減となったものの、依然として志願者数は 11 万 5 千人を超えており、現時点で首都圏の大学で最多となっている。方式別にみると一般方式で前年比 92%、センター方式で同 99%と、一般方式で減少した。2018 年度入試では一般方式で志願者が約 1 千人増加したものの、合格者数を約 1 千 8 百人減らしたため、難化した学部・学科が目立った。このため一般方式がより敬遠されたものとみる。

学部別にみても志願者が減少した学部が目立つ。とくに減少率が高かったのは、経営（前年比 72%）、社会（同 81%）、グローバル教養（同 87%）の各学部である。いずれも 2018 年度は志願者が大きく増加しており、受験生に警戒された形だ。一方、志願者が増加した学部は国際文化、人間環境、理工、生命科学部などである。国際文化、人間環境学部は前年の志願者数が減少しており、その反動とみられる。また理工系ではデザイン工学部も前年並みの志願者数となっており、上記 2 学部に加え、理工系 3 学部では志願者が集まっている状況だ。

[明治大学]

大学全体の志願者数は前年比 93%と、MARCHグループで最も減少率が高い。方式別でも一般方式で前年比 94%、センター方式で同 90%といずれも減少した。

学部別にみても、商、総合数理学部を除く全ての学部で志願者が減少した。総合数理学部では 2018 年度は志願者が減少していたこと、2019 年度から全学部統一入試（英語 4 技能 4 科目方式）を新規実施することなどから志願者が増加した。明治大ではこのほかにも英語外部試験に関わる入試変更が目立つ。2019 年度入試から国際日本、経営、農学部の全学部統一で英語外部試験の利用が可能になったが、英検 2 級合格で個別試験の英語の得点が 8 割に換算されるため、志願者増の一因となった。

[立教大学]

大学全体の志願者数は前年比 96%と減少した。方式別では一般方式で前年比 95%、センター方式で同 97%と、いずれも減少した。

センター方式では 2019 年度から理学部を除く全学部（文・ドイツ文学を除く）で 4 教科型を廃止し、新たに 6 科目型を実施した。前年の 4 教科型に比べ、6 科目型の志願者は 1 割ほど減少しており、科目負担増の影響が感じられる。従来からの 3 科目型（理学部は 4 科目型）では志願者数は前年比 98%となった。3 科目型では学部・学科により増減に差があり、2018 年度入試で難化した文・フランス文学（前年比 23%）、観光・交流文化（同 34%）で大きく志願者数を減らした一方、経済・会計・ファイナンス（同 628%）、コミュニティ福祉・福祉（同 213%）・スポーツウエルネス（同 183%）など、大学内あるいは学部内で比較的難易度が低い学科に志願者が集まった。

一般方式では全学部日程グローバル方式で前年比 77%と志願者が大きく減少した。グローバル方式は実施 4 年目となるが、志願者数が初めて前年を下回った。入試難易度が全学部日程 3 教科方式とほとんど変わらなくなったことも減少の要因だろう。

[早稲田大学]

大学全体の志願者数は前年比 95%、4年ぶりの減少となった。ただし、志願者数は 2019 年度も 11 万人を超えた。方式別にみると一般方式で前年比 92%、センター方式で同 113%と、対照的な結果となった。志願者の減少は、2018 年度私立大入試の難化から難関大を敬遠する動きがあるためであろう。早稲田大も 2018 年度の合格者数を前年から 1 割程度減らしており、受験生に警戒されたものとみる。一方、センター方式で志願者が増加したのは、早稲田大の出願締切がセンター試験後だったためとみられる。2019 年度のセンター試験は平均点が上昇、得点率 8 割以上の高得点者が前年より増加しており、積極的な出願につながったものとみる。

学部別の状況を見ると、文系学部では国際教養、法学部を除き志願者が減少したが、なかでも教育（前年比 84%）、社会科学（同 86%）で減少率が高い。教育学部では推薦入試の導入により一般入試の募集人員が 700→560 名（前年比 80%）に減少しており、志願倍率は上昇した。一般方式では志願者減が目立つなか、文、文化構想学部で実施する英語 4 技能テスト利用型では増加、志願倍率は一般方式より高くなった。

理工 3 学部はいずれも志願者が減少、3 学部合計の志願者数はこの 10 年で最少となった。なかでも先進理工学部は減少数は少ないものの 4 年連続の志願者減となった。

[同志社大学]

大学全体の志願者数は前年比 92%、4年ぶりの志願者減となった。方式別でみると一般方式で前年比 88%、センター方式で同 109%と、対照的な動向となった。センター方式では 2018 年度に志願者が減少した反動で増加した学部が目につく。また、理工（前年比 116%）、生命医科学（同 122%）と理系学部で志願者が大きく増加し

た。

学部別にみると、とくに減少率が高かったのはグローバルコミュニケーション、政策、経済学部である。グローバルコミュニケーション学部は近年隔年現象をおこしており、今年は減少の年に当たった。政策、経済学部は2018年度入試でいずれも約2割志願者が増加しており、敬遠されたようである。

反対に志願者が増加したのは、法、生命医科学、スポーツ健康科学部などである。いずれも一般方式でも志願者が増加した。法学部の学部全体の志願者数は前年比108%、過去10年で最多となった。生命医科学部も4年連続の志願者増となった。

[立命館大学]

大学全体の志願者数は前年比97%となった。方式別にみると、一般方式で前年比99%、センター方式で同95%となった。今春はグローバル教養学部が新設されたが、志願者数は現時点では公表されておらず、大学全体の数値には反映されていない。センター方式で志願者減少が顕著だが、2018年度入試ではセンター方式の合格者の減少率が高かった。このため、センター方式でより警戒されたものとみる。

学部別の状況をみると、2018年度新設の食マネジメント学部では前年比117%と大きく志願者が増加した。また、産業社会学部の志願者が前年比119%と大きく増加したが、2018年度の志願者が前年の約1割減となっており、その反動が出た形だ。経済、経営学部では2年連続の志願者減となった一方、法学部では2年連続の増加となった。政策科学部は隔年現象がみられる学部だが、近年はとくに顕著で、今春の志願者は前年比84%と大きく減少した。

理工系3学部では、生命科学部で志願者増、理工、情報理工学部で減少した。理工学部は2年連続の志願者減となった。情報理工学部は2018年度の志願者が大きく増加、難化したため敬遠された。スポーツ健康科学部では新たに学部個別配点方式（文系型）を実施した。志願者数は既存の理科1科目型の61人に対し、文系型は220人が集まった。学部全体の志願者数も前年比116%と増加した。

[関西大学]

大学全体の志願者数は前年比103%と増加した。関関同立グループの中で唯一志願者が増加した。2018年度入試では合格者数が約1割減少したが、その影響は感じさせない。方式別にみると一般方式で前年比99%、センター方式で同114%と、増加はセンター方式による。

学部別の状況は、総合情報学部で前年比133%と志願者が大きく増加した。そのほか、文、外国語学部でも1割前後志願者が増加した。一方で、社会科学系の学部では志願者の減少が目立ち、法（前年比96%）、経済（同95%）、社会安全（同92%）などとなった。

理工系の3学部ではシステム理工学部で志願者数の増加が目立つ。システム理工学部のセンタ前期、センタ中期数理重視方式では今春からセンター理科の必要科目数が2→1科目となった。このため、両方式の志願者数は前年から1割以上増加した。

[関西学院大学]

大学全体の志願者数は前年比91%と大きく減少した。方式別でも一般方式で前年比90%、センター方式で同94%と、いずれも減少した。2018年度入試では合格者数の減少により多くの学部・学科が難化しており、少なからず影響しているだろう。

学部別には社会科学系の学部で志願者が減少した学部が目立ち、なかでも経済（前年比68%）、商（同80%）で大きく減少した。国際学部の志願者数も前年比79%と減少が顕著で、今春の志願者数は1千5百人余りと2010年度の学部新設以来最少となった。

一方、志願者が増加したのは総合政策、理工学部などで、総合政策学部は4年連続の志願者増となった。理工学部は近年隔年現象がみられる。今春は増加の年に当たっており、志願者数は前年から7百人ほど増加した。